

憲照先生の手本ア・ラ・カルト
(à la carte)

締切り 三月二十五日(必着)

昭和57年12月

基	こ	内
礎	な	か
が	い	ら
弱	も	成
い	の	長
	は	し
		て

つけペン・墨汁使用

〔解説〕



- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

★内から：(書体Ⅱ行書)

けがをした時、治りがけにカサブタができることがある。中から本当に治ってきたのなら安心だが、見せかけのカサブタにごまかされてはならない。中が化膿していることを、うすうす知っていながら、そっとしておくのは、「はれものにさわる」のを避けていることになる。

学力も、その他の教養も、付け焼き刃でなく、真の力を持ちたいものである。

※付け焼き刃Ⅱその場しのぎのため
に、一時的に知識などを覚えること。

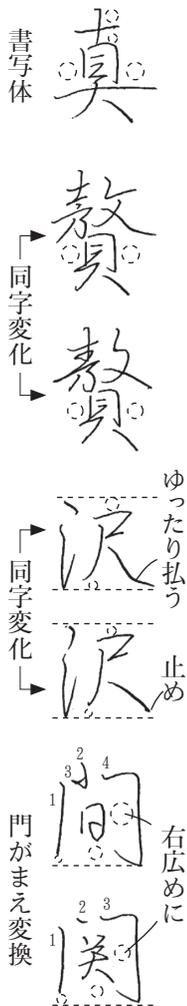
〔作品の出し方〕

- ▼ 今回は硬筆部だけに限ります。全員本会級位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様にお願います。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おくむら のぶ ゆき 書
奥村 暢之 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大谷 清城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

▼師範Ⅱ行書

◆4月課題予告(楷書)
笑いと地球上で
一番苦しんだ
動物が発明した

★真の…(書体Ⅱ行書)
サン・テグジュペリ
(一九〇〇〜一九四四)
フランスの作家
作家の僚友である老男性は、長い奴隷生活から解放された後、自由を味わいますが、「世界がいかに自分と無関係」かを思い知り、そこで持ち金すべてを町の子らに使いました。彼らへの「希望の重量」が自分にかかることで、自らの存在を量れたのでした。

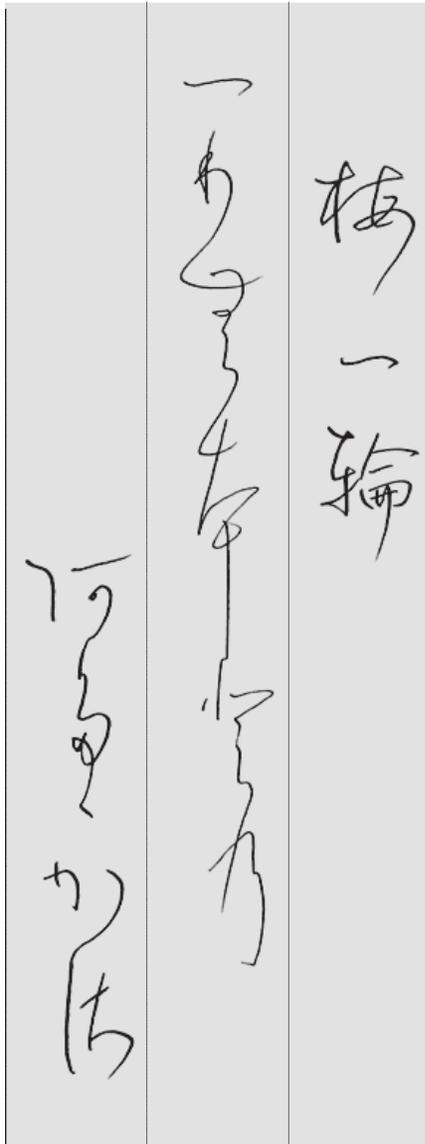
◆4月課題予告(行書)
明るい性格は
財産よりも
もっと尊い

★努力に…(書体Ⅱ楷書)
カント(一七二四〜一八〇四)
ドイツの哲学者
意識が変われば、習慣も変わってきます。習慣が変われば、行動も変わってきます。
そして、それは日々の積み重ねの努力によってのみ得られるものです。
自分の人生の目的にそった習慣を身につけることが大切でしょう。

準初段から六段まで

新入から1級まで

梅一輪一輪ほどの暖かさ
利無本登乃阿多、佐



田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

梅一輪一輪ほどの暖かさ
り無本あ多、可



■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

田中貴光書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

梅一輪一輪ほどの暖かさ

(服部嵐雪)
はっとりらんせつ

〔句解〕梅が一輪だけ咲いた。まだまだ寒いけれども、ほんの少し暖かさが感じられ春の訪れを見るようだ。

〔鑑賞〕へ一輪ほどのをへ一輪だけのではなくへ一輪ずつと誤られたりするところが理屈っぽく、かえって一般に受けたのだろう。寒中の梅一輪に感じたほのかな暖かさに目をつけたもので「一輪ずつの」(梅が一輪また一輪と咲くことに暖かさが増していく)とするよりは、よほど好感のもてる句。

〔古筆参考〕

本は 本は本は
登と 登と登と
乃の 乃の乃の
多た 多た多た
佐さ 佐さ佐さ

〔解説〕へんは、へんという漢字からできていますので、へんのような最後に右横へはらってください。

◆4月課題予告

子や待たんあまり雲雀の高あがり
ひばり

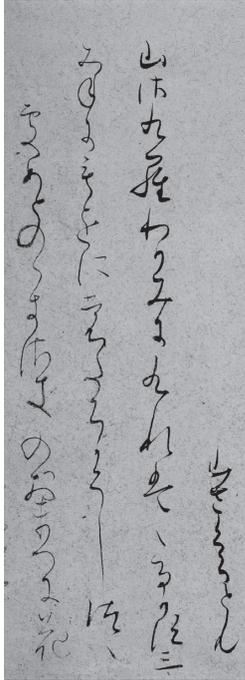
(杉山杉風)
すぎやまけんふう

締切り 三月二十五日(必着)

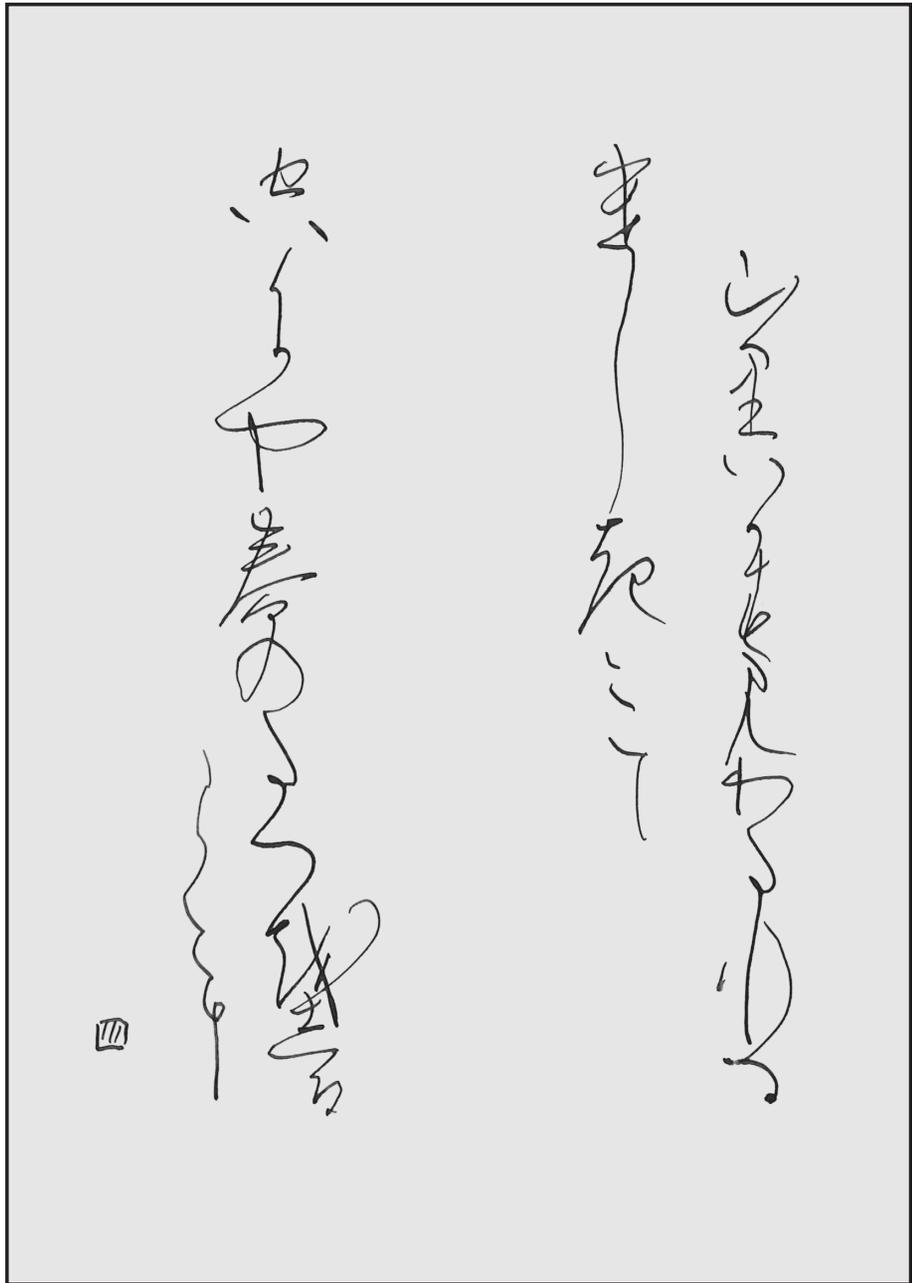
築瀬舟香書

〔古筆参考〕

せきとほんこきんしゅう
関戸本古今集



山ざくらとも
山ざくらわがみにくれば、るがすみ
みねにもをにもたちかくしつゝ
そめどのゝきさきのおまへに花



山里は霞みわたれる景色にて
空にや春の立つを知るらむ

〔歌意〕 山里は空が一面に霞みわたったその情景で暦によらなくても春が立ったことを知るだろう。

〔出典〕 山家集

(新潮日本古典集成)

〔解説〕



- 密の動き大切。
- 余白が文字を生かしてくれる。

◆ 4月課題予告

鶯の声ぞ霞にもれてくる
人めともしき春の山里

締切り 3月25日(必着)

沈丁花の香りも漂い、春の訪れも
近くなりました。今年はお父さんの
喜寿のお祝いを行いたいと思っ
ています。皆の都合を聞いた上で、
日取りを決めたいと思いますので
どうぞよろしくお願い致します。

沈丁花の香りも漂い、春の訪れも
近くなりました。今年はお父さんの
喜寿のお祝いを行いたいと思っ
ています。皆の都合を聞いた上で、
日取りを決めたいと思いますので、
どうぞよろしくお願い致します。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

3月下旬から、北国の川には春の
到来を告げる雪代水が流れる。

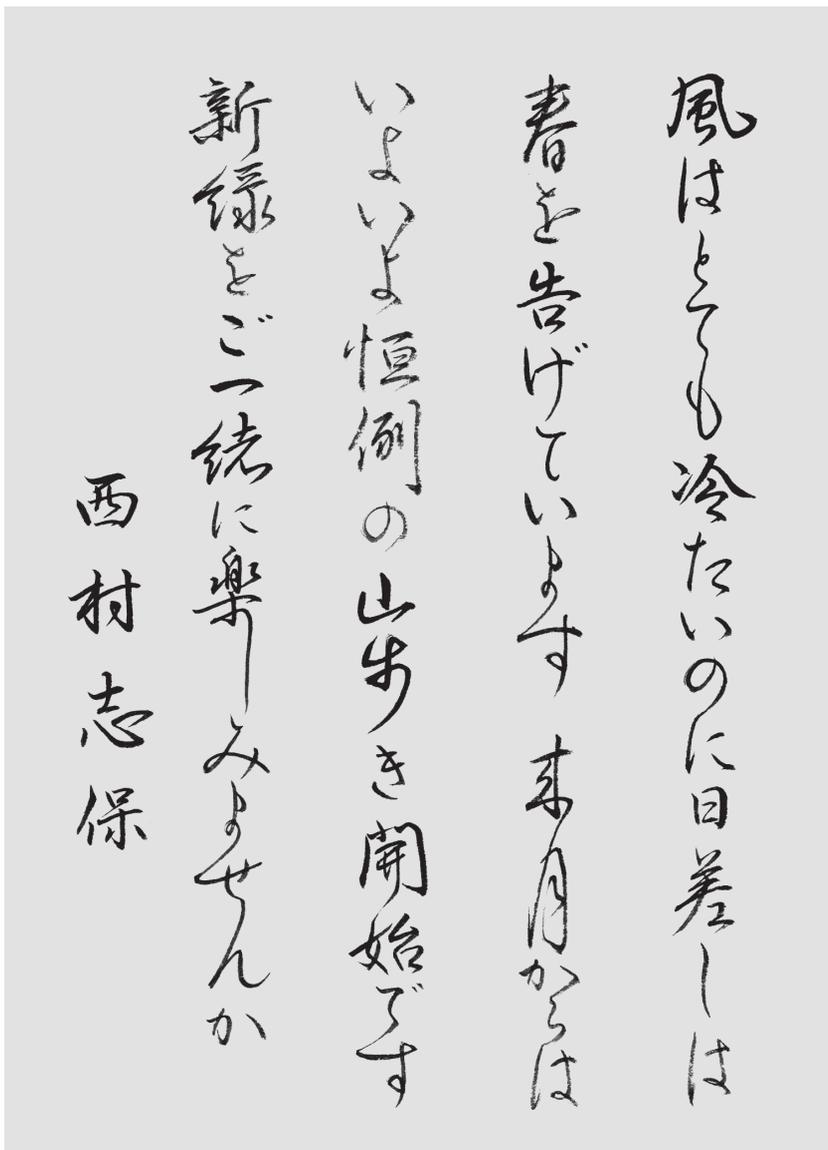
静岡県袋井市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

ゆきしろみず
雪代水

一般部毛筆細字課題

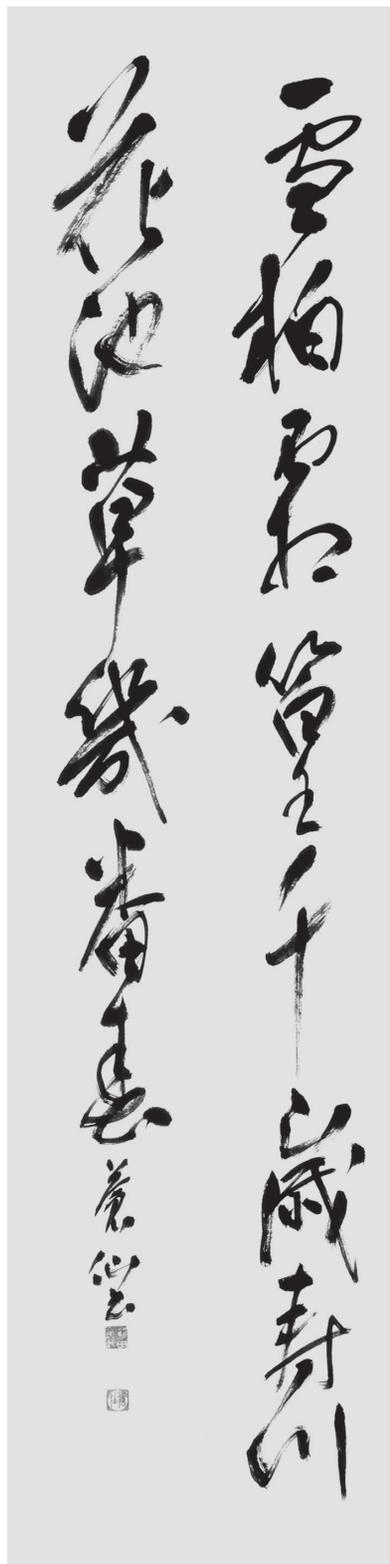
一般部毛筆条幅課題



西村志保

半紙 (334 mm × 240 mm)

書 香 梅 藤 伊



締切り 三月二十五日 (必着) 半切 (一三六 cm × 三五 cm)

荻田蒼仙書

雪柏霜篁千歳寿

川花池草幾番春

趙文

〔大意〕雪に堪え霜を凌ぐ柏や竹は千年もの命を保って緑に、川べの花や池のべの草は、かぞえるばかりの春である。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

古典から学ぶ……。ややもすると形だけ……。やはり古人のもつ人柄、心の魅力をも学びたいもの。

風はとても冷たいのに日差しは春を告げています 米月からはいよいよ恒例の山歩き開始です 新緑を一緒に楽しみませんか

(ご自分の氏名)

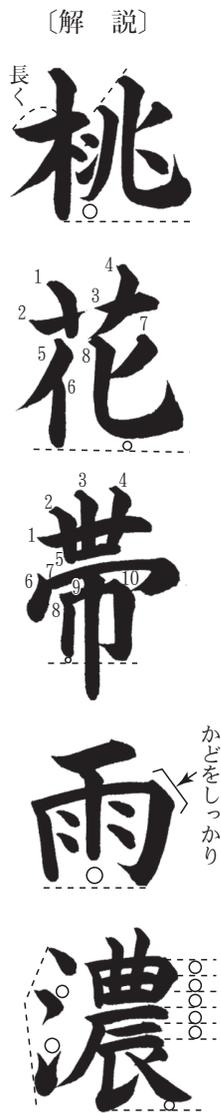
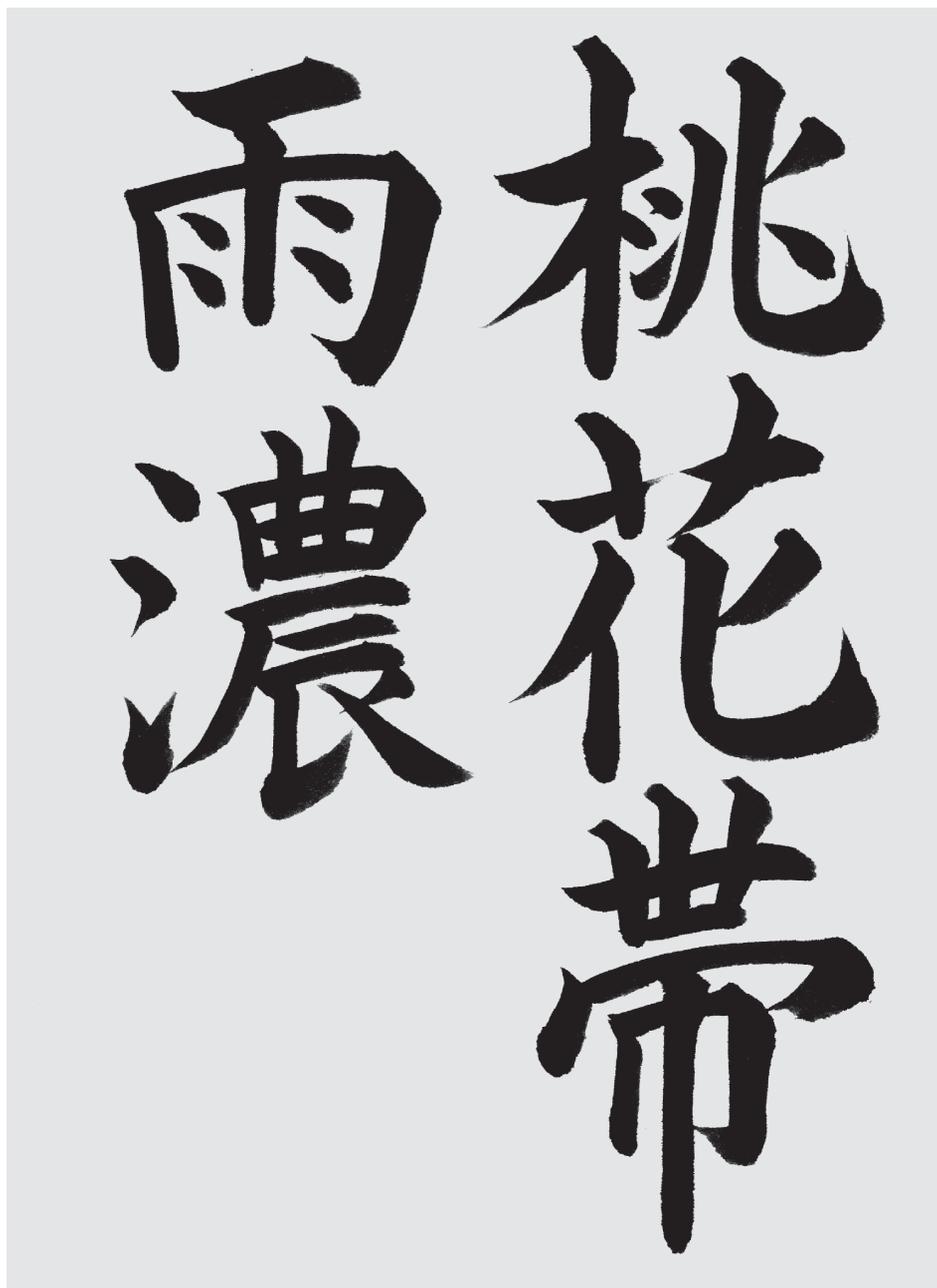
・印で墨つきしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

須田一葉書



とうかはあめをおひてこまやかなり
桃花帶雨濃
 「大意」桃の花が雨の露を受けて色濃く咲いている。

◎文房四宝一硯について

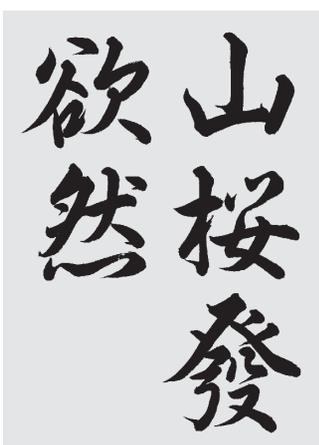
良い硯とは墨が早くおり、澆墨(せうぼく)が美しいものが良いとされています。
 良質のものは名硯として賞美愛蔵されています。

硯は唐硯と和硯に大別される。著名なものは端溪(たんけい)、歙州(しやくしゅう)、澄泥硯(ちやうでい)等々あるが高価なため、実用硯としては細羅紋硯(さいらもん)が多用されています。

大きさは、半紙用は四五平(しごひら)(たて一三五cm)が一般的で、条幅用には大型硯を使用します。

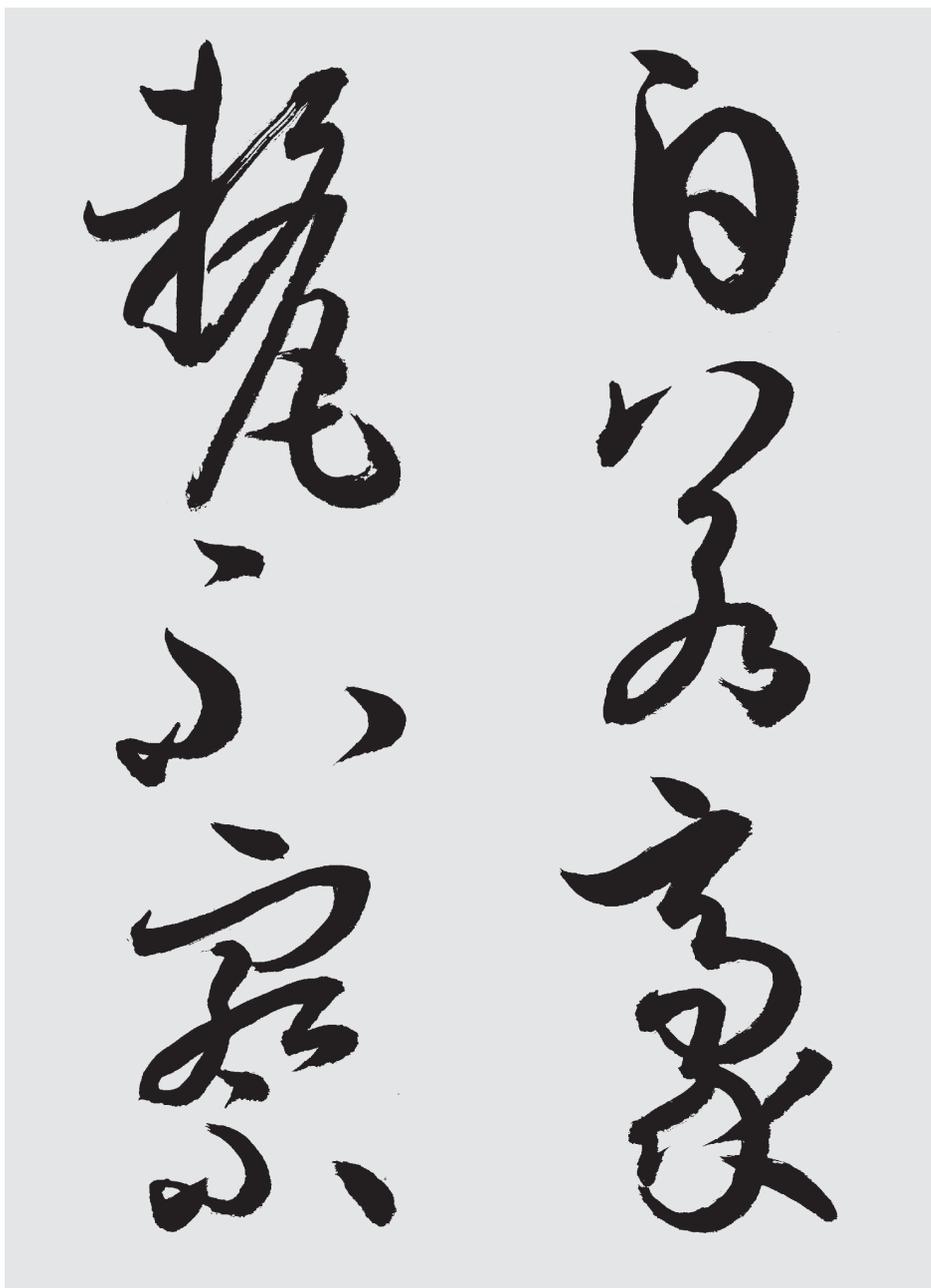
※硯の面は、いつもきれいにしておくことが大切です。次の磨墨の妨げにならぬよう、水を浸して柔らかい紙でふき取るとよいでしょう。

◆4月課題予告(行書)



準初段から師範まで

奥村暢之臨



白
若
豪
釐
不
察

〔出典〕書譜(六八七)

〔筆者〕孫過庭(六四八?~七〇三?)

〔読み〕(飛)白に(涵泳す)。若し豪

釐察せざれば、

〔解説〕

◆ 原本では紙面の都合上、太細や大小の差が明確ですが、半紙で習う場合はある程度控え目にまとめます。

◆ 草書では字形以上に、スピード感、遅速の変化、気脈の貫通に留意しましょう。

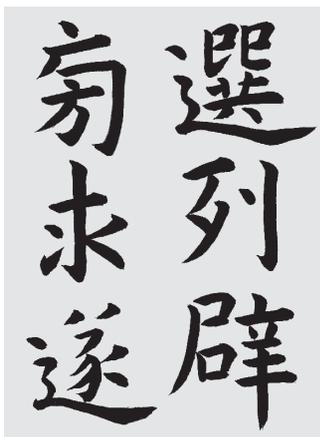
◆ 筆がスムーズに動くようになるまで繰り返し練習し、リズムをしっかりとつかみましょう。

※筆順をわかりやすく書くと、左のとおりです



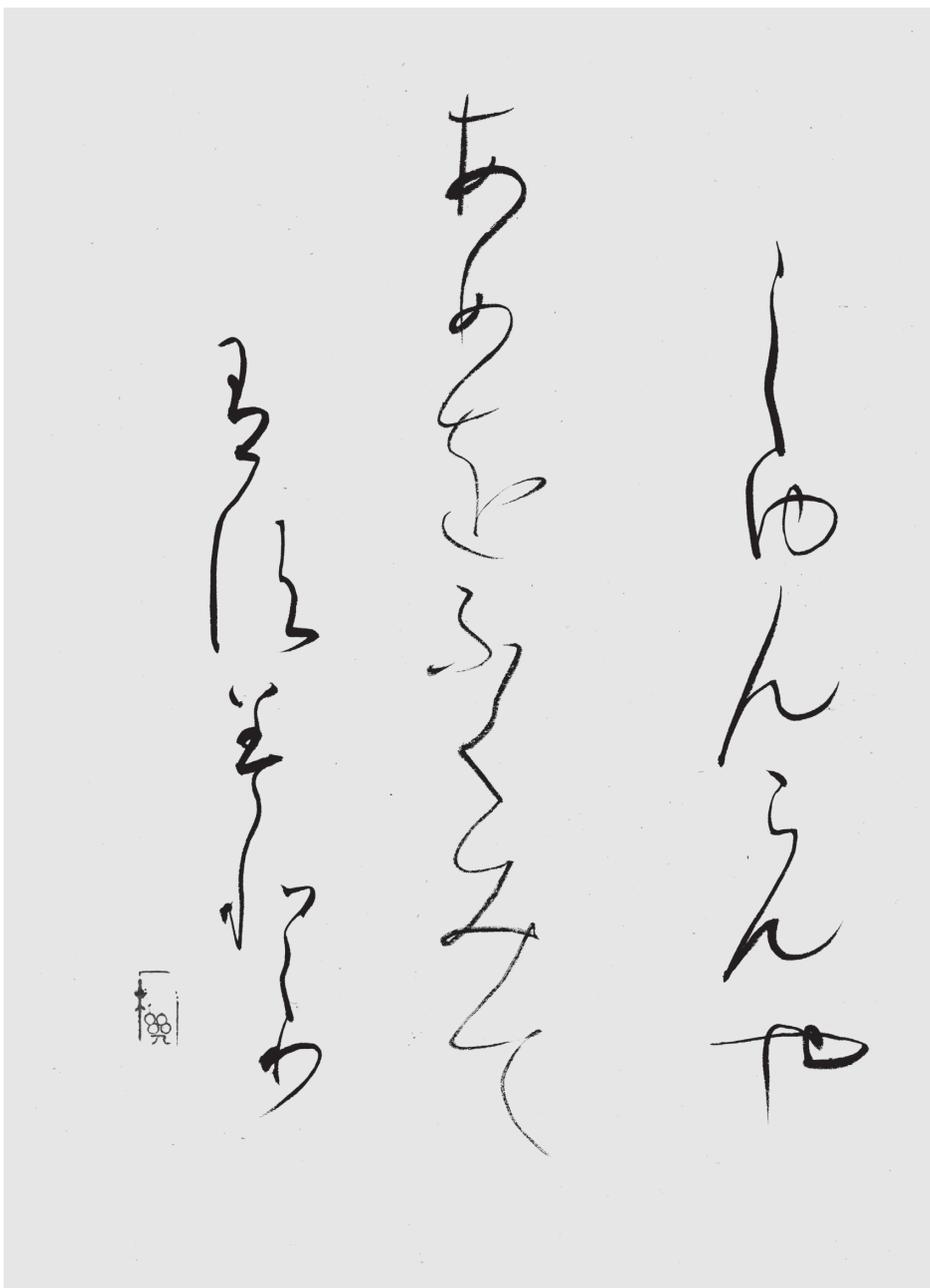
豪釐||細やかな部分

◆ 4月課題予告



新入から1級まで

浅井機山先生書



しゅんらん
春蘭や
あめ
雨を
ふくみて
うすみどり

有須美登利
杉田久女

〔句意〕

雨の中、春蘭の花が淡い緑の花を咲かせている。その香りが山中にすがしく漂っている、の意。

◆4月課題予告

飛鮎の底に雲ゆく流かな

〔解説〕

まず全体を見ると、中の行が一番長い。右の行がその次、左の行は一番短い。しかし、3行ともそれほど違くないので、1行1行しっかり書けばよいと言えます。ただ、〈行間の広狭の変化〉はよく捉えたい。

それでは、1行1行見ていきましょう。

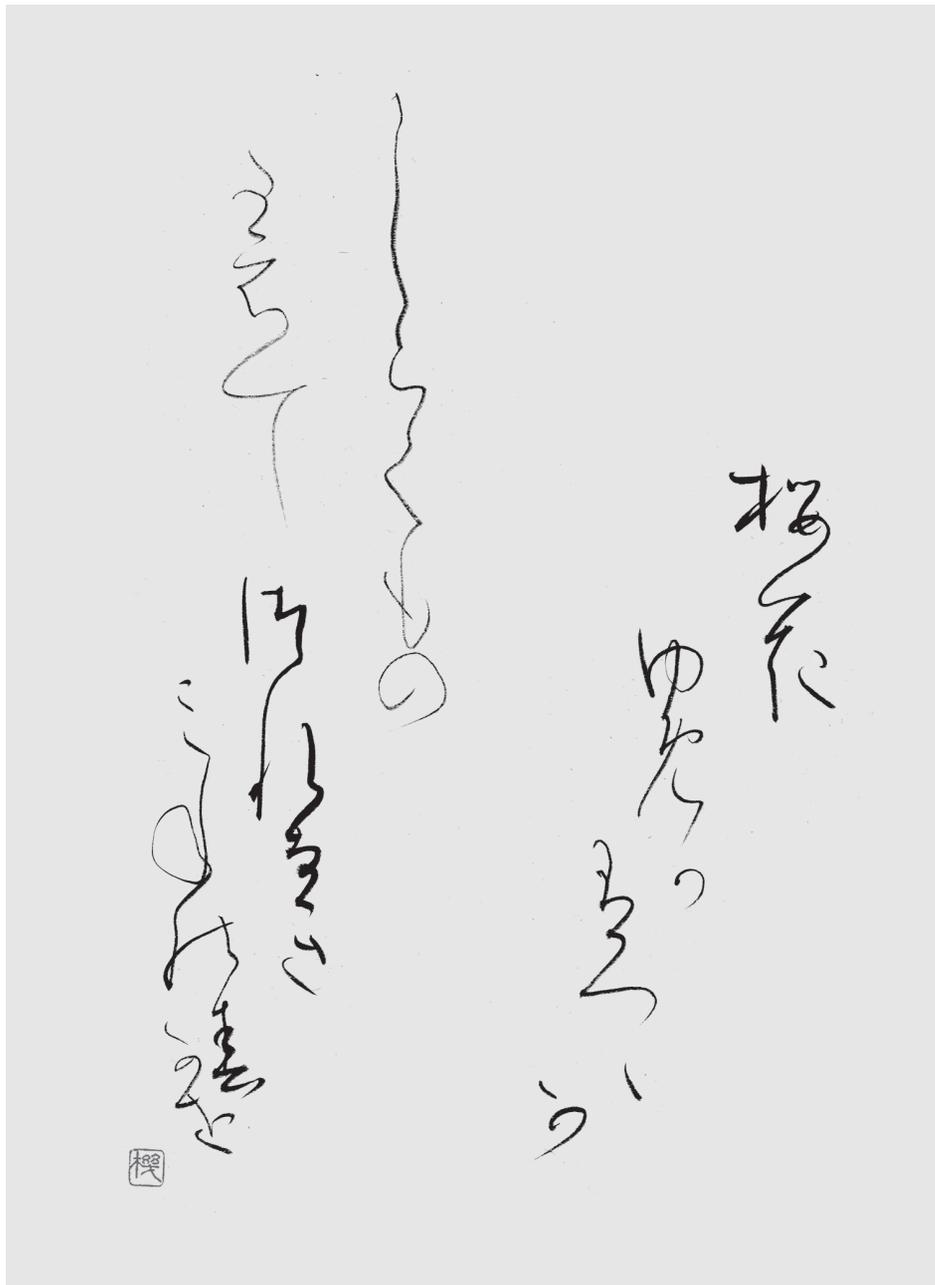
「しゅんらんや」、「し」は、空中からトンとたいたいて点を打ち、筆を一旦上げて揺らしながら引きます。「し」が終わったところで筆を一旦上げて「ゆ」の第1画に入ります。そして右回りにゆっくり、終画は短くてもよい。「ん」の第1画は「し」の流れを受けます。2つ目の「ん」は前の「ん」と同じように書いてもよいです。「や」は上の全体を受けるように書き上げます。

「あめを：」、「あ」と「め」は、同じ形が大小で書いてありますから同じように繰り返し返せばよいです。「を」は、垂直に近い線が大切で、これが「あめ」の流れをしっかりと受けます。「ふくみて」は、「ふ」の終画から左右左右…が続いていきますから、これをへリズムに乗って書くようにします。

「有須美登利」、ここで墨継ぎします。変体仮名が続きますから、字形をしっかりと把握して書きます。よく分からない、自分の習った字形と違う、と思ったら〈字典を引く〉ようにします。字形の狭い広い狭い広いが連続します。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



桜花^{ゆめ}夢^可か^有現^つか^可白雲^{くも}の

多^たえて^徒つれ^奈なき^{三年}峰^能の^可春風^世

〔歌意〕

桜の花は夢であったのか、現実であったのか。白雲のように見えていた遠山の花は消えつくして、全くつれなく吹き渡る峰の春風であるよ。

◆4月課題予告

おぼろ夜の空にむかへばわがこころ

朧に溶けて愁あらずも

「新古今和歌集二・春139」藤原家隆

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

右の母集団と、左の集団に分かれています。右は2字、3字、3字、1字と、階段を下りるように構成され、左は5字、7字、4字、2字と下がっていきます。

さて、1行1行見ていきましょう。

「桜花」、漢字2字ともカッチリ書かれています。が、「桜」の終わりから「花」の最初にかけては連綿線が左右に大きくカーブして柔らかな雰囲気を作っています。

「ゆめ可」、「ゆめ」は「ゆ」の終画と「免」の始画が共有して2字で1字の形の〈合字〉になっています。「免」からの連綿線はまだ「可」続いて行くぞという気持ちを含めています。

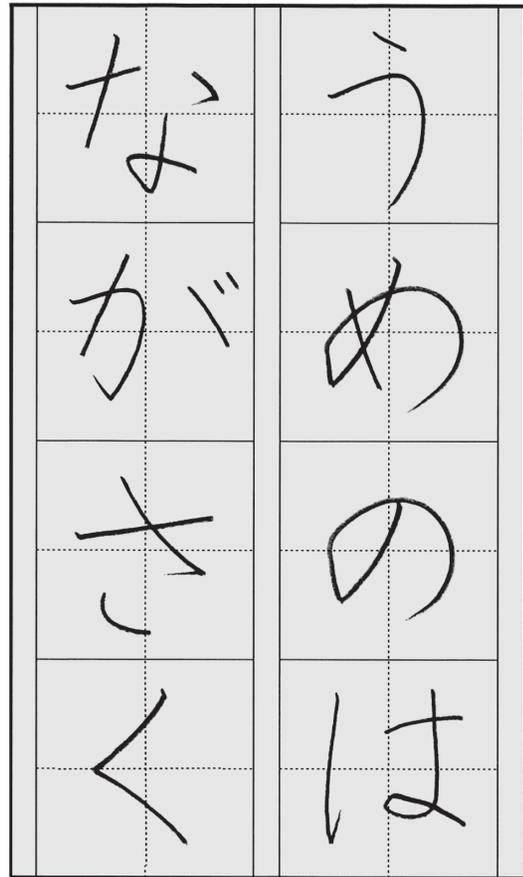
右の集団を見つめながら、

「しらくもの」、「し」の点を勢いよく振り下ろして揺らしながら「ら」の点まで書きます。点に上手くつなげない時はそこで〈筆を紙面から離し、持ち直して〉点に重ねて線をつなぎます。こうするとどどんと切らずに連綿したと同じように力強い線で書き進めることが出来ます。この1行の「の」の終わりが「ゆ」の頭と並ばない位置で書き終えます。

「多えて…」、「徒」で墨継ぎしますが、右の「桜」と「ゆ」との間になる位置に書きます。

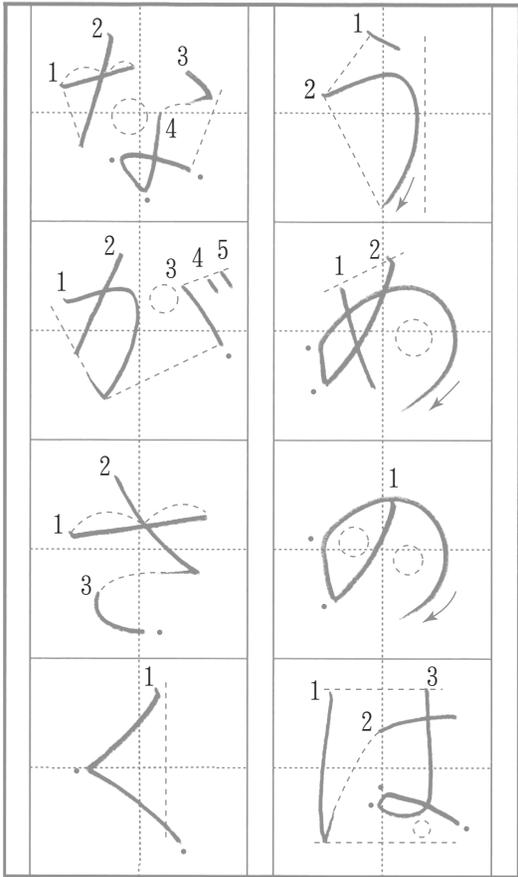
「三年能…」、「春」が右に移行して「可世」を〈軒先に書き入れ〉全体を引き締めます。

よ
う
年



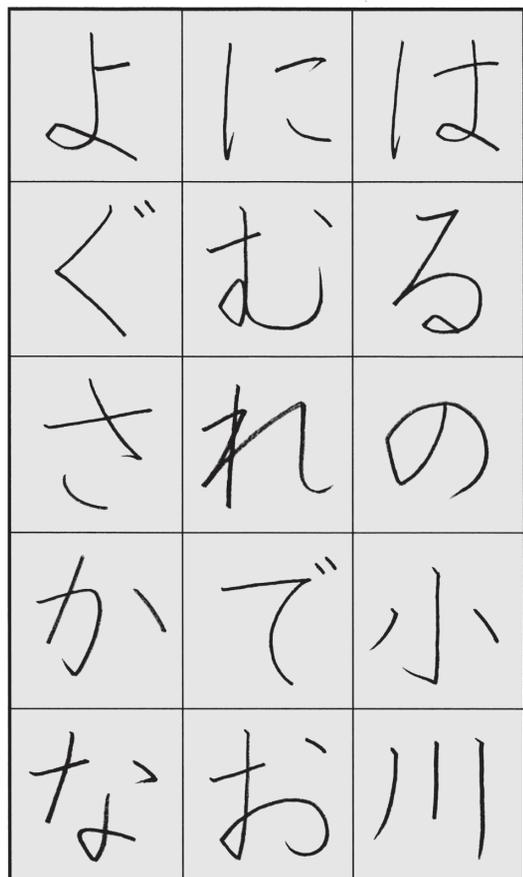
★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。

◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)



〈ようぐ〉自由(黒色にかき)

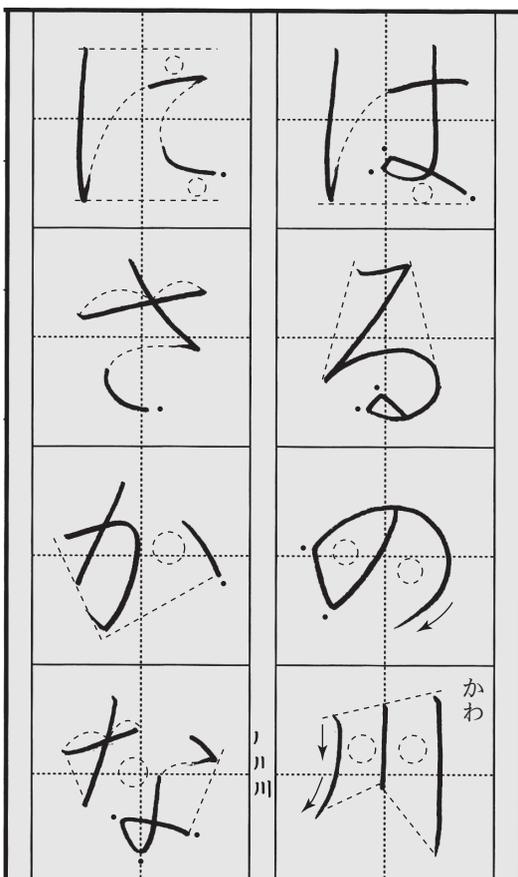
小
一
年



(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

準
初
段
以
上

新入〜1級



幼年〜小三年まで
三宅容玉書

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

の	シ 四
新	ガツ 月
学	カク 加
年	ネン 年

新入〜1級

て	新	四
も	学	月
楽	年	か
し	は	ら
み	と	の

準初段以上

小二年

準初段以上

く	まえ 前
白	にわ 庭
花	はな 花

新入〜1級

美	白	前
し	や	庭
い	黄	に
お	色	さ
花	の	く

準初段以上

小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

	の		小
	灯		台
	が		島

新入1級

海	灯	小
を	台	さ
守	が	な
る	暗	島
よ	い	の

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

	検		書
	定		写
	筆		技
	順		能

解説(よく見て習いましょう)

筆	定	書
順	の	写
も	た	技
学	め	能
ぶ	に	検

小五年

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

(全員)

小六年

ば	飯	今
り	予	日
と	想	の
的	が	晚
中	ず	ご

(全員)

※今日(きょう)単語としてこのように読みます。

解説(よく見て習いましょう)

予	今
想	日
的	晚
飯	飯

〈用具 自由(黒色に限る)〉

中一年

花	つ	お
束	た	世
を	先	話
贈	輩	に
る	へ	な

(行書)

中二・三年

(行書)

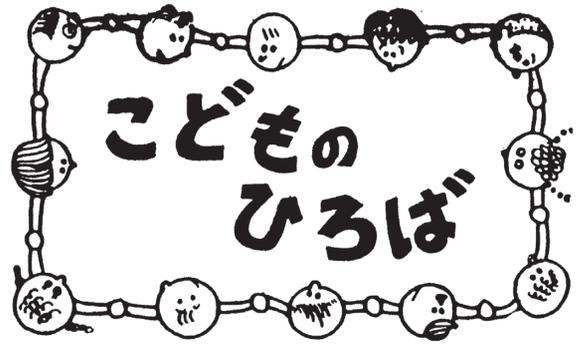
を	で	奇
生	新	技
み	し	な
出	い	発
す	物	想

▼小三年以下の課題 さ さ き けい せん 佐々木 恵 泉 書

練	乗	自	空	家
習	の	転	き	の
中	れ	車	地	近
で	る	に	で	く
す	よ			の
	う			



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 3月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 お お ほら けい えん 大 原 啓 園 書

散	家	春	さ	暖
策	族	の	そ	か
す	そ	京	わ	な
る	ろ	都	れ	陽
	っ	を	て	気
	て			に



◎お手本はつけペン使用

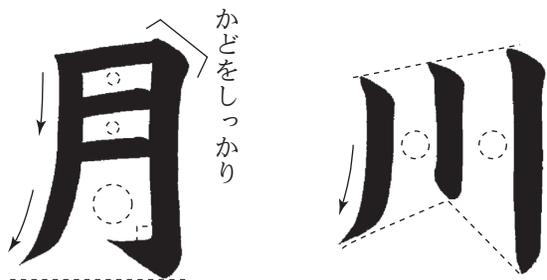
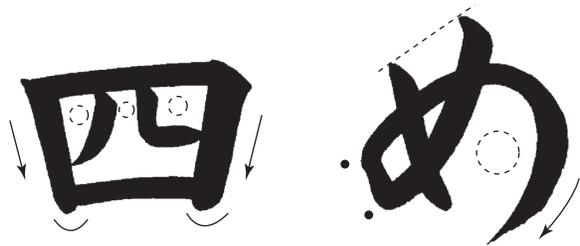
◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



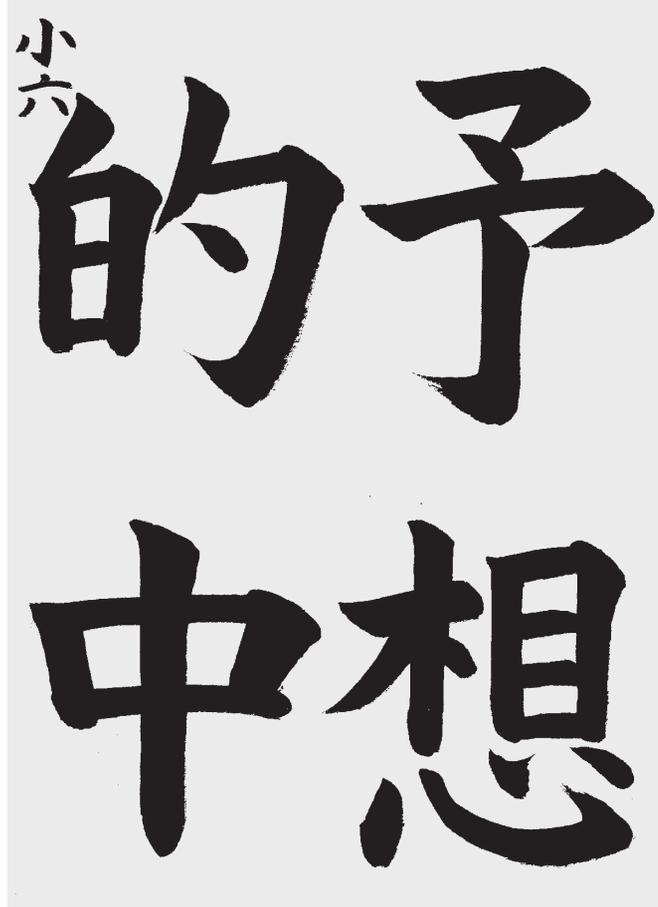
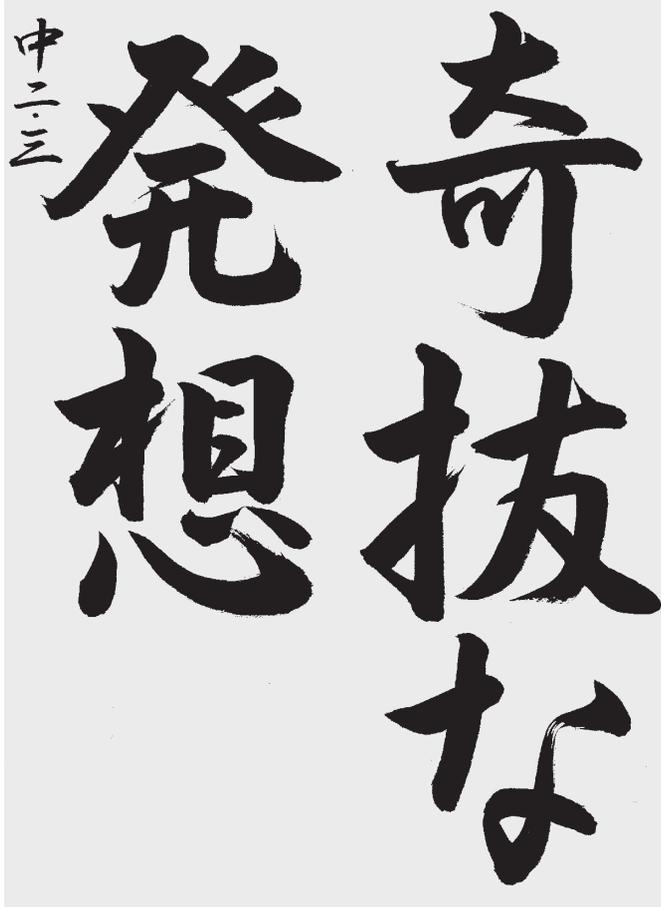


幼年く小二年
酒さか
井い
智ち
仔こ
書





小三〜小五年
水野碧友書



小六〜中二・三年
玉樹小華書



※行書は線の連なりを大切に!

